

開講日	2009年12学期 水曜日 18:30-20:30	講義場所	研究棟11階講義室B	医	技	保
				●	●	●
コーディネーター	名古屋市立大学消化器外科 教授 竹山廣光			※●:コア科目、○:選択科目		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】栄養は空気、水と同様に必須である。これをないがしろにして正しい治療はありえない。臨床治療において栄養管理の重要性を啓発し、低栄養撲滅を目指してNutritional Support Team (NST) が多くの病院で立ち上がっている。NSTチーム医療を行うに当たり、知っていただかなければならないこと、できなければならぬ技術を学習し、医療の現場に復帰を促す。解剖、生理、生化学を復習し、さらに実際の事例にもとづいた症例検討まで予定している。 【期待される成果】多くの職種の方々が医療現場に復帰された際に、必ず接する栄養不良について、基礎から臨床事例まで全般にわたり網羅しており、将来必ず役立つ。
目標とする 資格	本講義は、栄養サポートチーム (NST) 専門療法士の資格取得に役立つ。

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
総論	1	NST活動の実際	栄養管理は、全ての疾患治療の上で共通する基本的医療のひとつであり、これを疎かにするといかなる治療法も効力を失い、さらに侵襲的な治療に伴う副作用や合併症の発生を容易にする。栄養管理を適切に実施するNST活動の実際を解説する。	12月2日	准教授 伊藤彰博 藤田保健衛生大学 外科・緩和医療学講座
	2	消化器・解剖・生理	NSTチーム医療を実践するにおいて必要となる栄養管理の理解を深め、一層確実なものとするために、本講義では、栄養の基礎となる消化器の解剖、生理について、復習する。	12月9日	准教授 泉原義之 名古屋市立大学 消化器外科
	3	各栄養素の代謝	三大栄養素(炭水化物、脂質、蛋白質)に電解質・ビタミン・水を加えた6種がヒトにとっての栄養素である。それぞれの代謝経路について、摂取・投与経路による違いも含めて解説する。	12月16日	院長 谷口正哲 大隈病院
	4	栄養不良の現状と疾患との関連	現在、医療機関において栄養不良は入院患者の少なくとも10～15%に認められる。栄養不良は現疾患の合併症発生率・死亡率を上昇させ、治療期間を延長し、医療コストを増加させる。適切な栄養管理がこれらのリスクを低下させることを解説する。	1月6日	院長 谷口正哲 大隈病院
	5	栄養スクリーニングとアセスメントの実際	より良い栄養管理は、栄養アセスメントの質によって決まる。最良の栄養管理を提供するためには、スクリーニングによる栄養障害リスク患者の早期発見と、きめ細かなアセスメントによる栄養障害因子の的確な同定が必要である。	1月13日	准教授 早川麻理子 名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科
強制 栄養法	6	中心静脈カテーテルの留置・管理	中心静脈栄養は栄養管理における重要な方法のひとつであるが、カテーテル留置・管理は決して易しいものではなく、十分な知識と慎重な対応が必要である。この講座では、中心静脈カテーテルに関する臨床に役立つ情報を提供したい。	1月20日	助教 坂本雅樹 名古屋市立大学 消化器外科
	7	静脈栄養における処方設計	静脈栄養を行なう上における各栄養素(糖、アミノ酸、脂肪)の投与設計の方法と注意事項についての知識を習得する。	1月27日	係長・NST専門薬剤師 水野裕之 名古屋市立大学病院薬剤部
	8	経腸栄養法 投与経路:PEGの実際と合併症について	経腸栄養は生理的かつ優れた栄養投与ルートであることが科学的に証明され注目されている。本講座ではPEGを用いた経腸栄養ルート作製の適応、合併症、長期的経腸栄養管理について述べる。	2月3日	教授 櫻井洋一 藤田保健衛生大学 上部消化管外科
	9	経腸栄養の栄養剤選択と事例	入院患者の栄養管理の重要性が認識されるとともに、数多くの病態別経腸栄養剤が販売されており、それらの特徴や選択方法、さらに事例について実践的な学習を行う。	2月10日	伊藤明美、打田由美子 名古屋市立大学病院 NST専門療法士
各論	10	高齢者における栄養管理について	高齢者に起こる嗜好の変化や身体的問題などによって引き起こされる栄養管理上の問題点を理解するとともに、誤嚥防止や低栄養予防などへの取り組みや、内容や固さに配慮した栄養指導法について学ぶ。	2月17日	講師 兼松孝好 名古屋市立大学大学院医学研究科地域医療教育学
	11	褥瘡と栄養管理	褥瘡の発生や治癒には局所の皮膚に加わった圧力だけでなく栄養状態が関わっている。褥瘡の発生・予防・治療と栄養状態・体圧・局所処置について述べる。	2月24日	部長 榊原代幸 名古屋市立東部医療センター 東市民病院皮膚科
	12	メタボリックシンドロームと栄養管理	メタボリック症候群という言葉は国民の健康意識を高める一因となった。しかし、ダイエット食品やサプリメントの正しい使用法を理解しなければ危険も多い。当講座では、自己の健康を維持する社会観を創造するための講義を行う。	3月3日	講師 杉浦伸一 名古屋大学医学部附属病院 予防早期医療創成センター
	13	炎症性腸疾患と栄養管理	栄養療法、特に成分栄養療法は、炎症性腸疾患(おもにクローン病)患者の治療、管理において、瘻孔や膿瘍形成など腸管合併症の発生を予防し、大変重要な位置を占めている。どんな時に栄養療法が必要か、また、栄養療法の実際を解説する。	3月10日	助教 谷田諭史 名古屋市立大学 消化器・代謝内科
	14	化学療法と栄養管理	がんの化学療法に伴い、制吐対策、感染予防、口腔ケア、悪液質対策、緩和ケアの観点において栄養管理が関与している。また、化学療法剤がもたらす栄養素欠乏等、栄養管理不良がもたらす不利益とその対策について学ぶ。	3月17日	部長 小松弘和 名古屋市立大学病院 化学療法部
	15	肝臓病の栄養療法	肝臓病では極めて多岐にわたる栄養代謝異常が認められる。慢性肝炎および肝硬変患者の病態、栄養アセスメントと栄養療法の実際について事例をまじえて詳細に解説する。	3月24日	病院講師 野尻俊輔 名古屋市立大学 肝臓内科